

## ◇大阪市中学校給食検討会議の設置について

外食や調理済み食品等の利用が増加するなど、近年の食行動の多様化を背景に、偏った栄養摂取や朝食の欠食、不規則な食生活など、食習慣・食生活の乱れが問題となっており、「望ましい食習慣の形成」や「食に関する知識の習得・食を選択する力の育成」など、成長期の子どもに対する「食育」の推進が求められている。

中学校給食の全国的な実施状況が約7割程度の状況の中、成長期にある子どもたちの心身の健全な発達や「食」の充実のため、教育委員会として昼食提供事業の検証を行いつつ、中学校給食の課題を調査・検討するため本検討会議を設置することとした。

### ●検討会議委員構成について

#### 外部委員（5名）

学識経験者	3名	（栄養学・衛生管理・コスト管理）
保護者代表	2名	（PTA協議会代表）

#### 内部委員（5名）

小・中学校代表	2名
事務局職員	3名

### ●検討会議における検討事項（ワーキンググループ）について

- ・ニーズ調査や中学生の昼食（食生活）実態調査と昼食提供事業の検証
- ・中学校施設設備の実態調査として、給食実施に必要なスペースの調査
- ・他都市の給食実施状況視察など

### ●検討会議開催状況

現在まで6回開催。以後、12月末までに3回程度開催し、検討会議としてのまとめを策定する予定。

## ◇食生活等に関するアンケート調査について

### ●アンケート調査の実施について

市民や中学生の食に関する認識、日ごろの食生活の実態を把握し、本市が中学校給食の検討を行う上での基礎資料とするため、本年7月に実施した。

- ・市民（市政モニターへアンケート） 600人
- ・保護者（調査を実施する児童・生徒の保護者） 9,029人
- ・教員（全中学校の校長・教頭・養護教諭・生徒指導主事・学年主任(3人)・アンケート実施クラス担任） 991人
- ・生徒 全中学校を対象に事務局が指定する学年の中から1クラスを抽出 4,678人
- ・児童 中学校区単位ごとに事務局が小学校1校を抽出し、第6学年の中から1クラスを抽出 4,351人

**合計 19,649人**

### ●アンケート調査結果について

合計 19,649人に対して実施 → 17,185人が回答（回答率 87.5%）

## ○食生活

- ・朝食を食べている中学生のうち、毎日朝食を食べている中学生は 68.7%である。  
また、週の半分以上、朝食を食べない中学生は 13.8%。（設問 1）

設問	質問内容	回答	中学生	
【設問 01】	1週間に何日ぐらい朝食を食べていますか。	1. 毎日	2,986	68.7%
		2. 週に6日	322	7.4%
		3. 週に4～5日	438	10.1%
		4. 週に2～3日	274	6.3%
		5. 週に1日	111	2.6%
		6. 食べない	213	4.9%

- ・中学生が朝食を食べない理由→「食べる時間がないから」が 42.2%  
「食欲がないから」が 31.4%。（設問 2）

設問	質問内容	回答	中学生	
【設問 02】	朝食を食べない理由は何ですか。 〔設問 01 で「2～6」を選んだ方が対象。〕	1. 食欲がないから	413	31.4%
		2. 食べる時間がないから	554	42.2%
		3. 朝食が用意されていないから	103	7.8%
		4. 太りたくないから	17	1.3%
		5. 食べないことが習慣になっているから	80	6.1%
		6. その他の理由で食べない	147	11.2%

・朝食を食べている中学生のうち、いつもバランスよく朝食を食べている中学生は 26.8%。

(設問 3)

設問	質問内容	回答	中学生	
【設問 03】	朝食を食べるときは、主食と主菜と副菜をバランスよく食べていますか。〔設問 01 で「1~5」を選んだ方が対象。〕	1. いつもそうしている	845	26.8%
		2. 時々そうするようにしている	903	28.6%
		3. ほとんどそうしていない	866	27.5%
		4. いつもそうしていない	540	17.1%

・「日ごろの食生活」について質問したところ、「食事を楽しむようにしている」「食事の最初と最後に挨拶している。」「野菜をよく食べている」など全 13 項目の質問のうち、全回答者中、10 項目において中学生が、最も多くの課題をかかえている。(設問 13)

【設問 13】 あなたの日ごろの食生活について教えてください。

設問	質問内容	回答	市民	教職員	中学生	中学生 保護者	小学生	小学生 保護者
a.	食事を味わうことや会話しながら食べることなど、食事を楽しむようにしている。	1. いつもそうしている	48.2%	47.2%	43.0%	57.5%	48.9%	61.5%
		2. 時々そうしている	39.2%	41.3%	33.3%	36.2%	33.6%	32.9%
		3. あまりしない	11.2%	10.5%	16.9%	5.8%	12.3%	5.0%
		4. しない	1.4%	1.1%	6.8%	0.5%	5.1%	0.5%
b.	食事の最初と最後に「いただきます」「ごちそうさま」を言っている。	1. いつも言っている	52.8%	63.1%	57.8%	64.7%	69.0%	69.6%
		2. 時々言っている	30.4%	27.1%	23.6%	24.0%	20.6%	22.7%
		3. あまり言わない	11.4%	8.4%	10.3%	8.8%	6.6%	5.8%
		4. 言わない	5.4%	1.4%	8.3%	2.5%	3.8%	1.9%
c.	ゆっくりよくかんで食べるよう心がけている。	1. いつもそうしている	24.8%	16.3%	19.3%	28.2%	20.2%	30.1%
		2. 時々そうしている	44.7%	39.2%	42.4%	46.8%	49.0%	46.5%
		3. あまりしない	28.0%	40.4%	29.2%	23.1%	24.2%	21.6%
		4. しない	2.5%	4.1%	9.1%	1.8%	6.6%	1.7%
d.	食事のときはテレビや本を見ながら食べている。	1. いつもそうしている	30.0%	19.1%	59.2%	47.7%	54.2%	45.1%
		2. 時々そうしている	42.6%	47.8%	24.6%	32.4%	27.2%	34.4%
		3. あまりしない	14.4%	19.8%	7.3%	11.0%	8.8%	10.8%
		4. しない	13.0%	13.4%	8.9%	8.9%	9.7%	9.8%
e.	野菜をよく食べている。	1. いつも食べている	66.4%	68.4%	41.7%	64.9%	46.9%	65.0%
		2. 時々食べている	27.1%	26.1%	41.8%	29.8%	40.5%	29.4%
		3. あまり食べない	6.3%	4.9%	13.2%	4.3%	10.4%	5.1%
		4. 食べない	0.2%	0.6%	3.3%	1.0%	2.2%	0.6%
f.	お菓子ばかり食べて食事をしない。	1. いつも食事をしない	2.2%	0.4%	4.8%	1.4%	4.8%	0.8%
		2. 時々食事をしない	5.1%	2.1%	8.8%	4.7%	5.6%	3.8%
		3. 食事をしないことはあまりない	17.2%	17.5%	22.3%	15.1%	13.7%	14.0%
		4. 食事はいつもしている	75.6%	79.9%	64.1%	78.9%	75.9%	81.4%

設問	質問内容	回答	市民	教職員	中学生	中学生 保護者	小学生	小学生 保護者
g.	好きなものを食べている。	1. いつもそうしている	3.6%	2.8%	8.9%	3.9%	6.6%	3.5%
		2. 時々そうしている	21.9%	18.7%	31.0%	23.2%	27.5%	25.1%
		3. あまりしない	43.9%	39.3%	34.5%	39.3%	34.4%	37.7%
		4. しない	30.6%	39.2%	25.6%	33.5%	31.5%	33.7%
h.	出されたものは残さず食べている。	1. いつも残さず食べている	62.0%	72.0%	40.5%	61.3%	42.0%	57.7%
		2. 時々残すことがある	36.7%	27.0%	51.0%	36.8%	50.4%	40.5%
		3. よく食事を残す	0.5%	1.0%	6.8%	1.4%	6.5%	1.5%
		4. いつも食事を残す	0.7%	0.0%	1.8%	0.6%	1.2%	0.3%
i.	好き嫌いをなくすように心がけている。	1. いつもそうしている	61.5%	67.9%	34.5%	60.2%	42.4%	61.4%
		2. 時々そうしている	27.1%	19.3%	31.5%	29.8%	33.2%	29.4%
		3. あまりしない	8.5%	9.4%	21.5%	8.2%	16.1%	7.6%
		4. しない	2.9%	3.3%	12.5%	1.8%	8.3%	1.6%
j.	朝食・昼食・夕食の3食をきちんと食べるように心がけている。	1. いつもそうしている	78.5%	78.7%	67.0%	74.6%	75.8%	79.3%
		2. 時々そうしている	14.3%	12.8%	18.3%	18.3%	16.6%	15.4%
		3. あまりしない	5.8%	6.4%	9.9%	5.5%	5.4%	4.4%
		4. しない	1.4%	2.0%	4.8%	1.7%	2.2%	0.9%
k.	「フライ」や「から揚げ」などの油を使った食品をよく食べる。	1. いつも食べている	6.7%	12.8%	10.2%	8.2%	7.1%	7.6%
		2. 時々食べている	63.7%	62.2%	68.5%	72.4%	67.2%	74.8%
		3. あまり食べない	28.0%	23.2%	19.2%	18.6%	24.0%	16.8%
		4. 食べない	1.6%	1.8%	2.1%	0.8%	1.6%	0.8%
l.	ジュースなどの清涼飲料をよく飲んでいる。	1. いつも飲んでいる	10.3%	8.5%	33.5%	12.1%	27.3%	12.7%
		2. 時々飲んでいる	28.2%	29.7%	46.4%	34.5%	46.5%	35.9%
		3. あまり飲まない	43.5%	43.8%	16.4%	38.6%	21.7%	39.7%
		4. 飲まない	18.1%	17.9%	3.7%	14.8%	4.5%	11.7%
m.	料理の手伝いや後片付けをする。	1. いつもしている			21.9%		26.3%	
		2. 時々している			37.3%		40.3%	
		3. あまりしない			24.7%		22.4%	
		4. しない			16.1%		11.0%	

→これらの回答内容から、中学生に食生活・食習慣の乱れが見られる。

## ○食育

・「食事の楽しさを教えること」、「栄養バランスについて教えること」、「感謝の気持ちを育むこと」は「学校の役割である」と回答した市民、保護者が多かった。（設問 14）

設問	質問内容	回答	市民	教職員	中学生 保護者	小学生 保護者
【設問 14】	「食育」について、次の中で、主に「学校の役割」だと思うことを選んでください。〔複数回答可能〕	1. 食事を味わうことや楽しく会話しながら食えることなど、食事の楽しさを教えること	52.8%	34.9%	51.0%	55.4%
		2. 栄養バランスや食事の大切さについて教えること	76.9%	75.8%	73.8%	78.9%
		3. 規則正しい食習慣を身につけること	54.4%	48.1%	43.2%	41.6%
		4. 「いただきます」や「ごちそうさま」が言えるなどの食事マナーを身につけること	54.8%	45.5%	46.1%	54.5%
		5. 毎日の生活に役立つ、ご飯の炊き方やおかずの作り方などを教えること	22.7%	19.7%	19.4%	17.0%
		6. 産地や賞味期限、原材料、添加物の表示や食品の安全性について教えること	53.5%	62.8%	49.3%	44.5%
		7. 自然の恩恵や「食」に関わる人々への感謝の気持ちを育むこと	75.5%	64.3%	63.5%	67.2%

→これらの回答内容から、食育は、本来学校・地域・家庭がそれぞれ連携協力し進めていくことが必要であるが、学校への期待が高い。

## ○屋食の希望

- ・毎日家庭弁当を持たせている保護者が 73.6%、週の半分以上持たせている保護者を含めると 95.1%となる。(設問 15-a)

設問	質問内容	回答	中学生保護者	
【設問 15】 a.	お子さんに週何回ぐらい家庭で作ったお弁当を持たせていますか。	1. 毎日	2,513	73.6%
		2. 週に4日	595	17.4%
		3. 週に3日	141	4.1%
		4. 週に2日	30	0.9%
		5. 週に1日	28	0.8%
		6. 持たせていない	106	3.1%

- ・家庭弁当を持たない日の屋食は、「おにぎり」「パン」が多数である。(設問 15-g)

設問	質問内容	回答	中学生	
【設問 15】 g.	家で作ったお弁当を持ってこない日は屋食に何を主に食べていますか	1. 学校で売っている弁当	298	7.2%
		2. 市販の弁当	176	4.2%
		3. 学校で売っている「おにぎり」や「パン類」	1,110	26.7%
		4. 市販の「おにぎり」や「パン類」	1,573	37.9%
		5. 牛乳などの飲み物のみ	21	0.5%
		6. 必ず弁当を持ってくる	901	21.7%
		7. その他の食べ物	74	1.8%

- ・中学校での望ましい屋食は、市民は給食が多いものの家庭弁当も拮抗している。教職員は 8割以上が家庭弁当、中学生は家庭弁当 5割、給食 2割、小学生は家庭弁当 7割、給食 1割、中学生の保護者は家庭弁当 3割、給食 6割、小学生の保護者は家庭弁当 2割、給食 8割となっている。(設問 16)

設問	質問内容	回答	市民	教職員	中学生	中学生保護者	小学生	小学生保護者
【設問 16】	中学校での屋食で、食べたい、もしくは食べさせたいと思うのはどれですか	1. 家で作った弁当	43.1%	83.2%	51.4%	33.7%	72.9%	22.0%
		2. 学校給食	53.1%	15.9%	21.9%	63.7%	11.0%	76.1%
		3. 学校で売っている弁当	1.1%	0.2%	2.6%	0.5%	3.0%	0.3%
		4. 店で売っている弁当	0.7%	0.1%	2.6%	0.1%	2.8%	0.0%
		5. 学校で売っている「おにぎり」や「パン類」	0.4%	0.0%	6.5%	0.3%	4.6%	0.2%
		6. 店で売っている「おにぎり」や「パン類」	0.0%	0.0%	11.0%	0.3%	4.0%	0.0%
		7. その他	1.6%	0.5%	4.1%	1.4%	1.7%	1.5%

- 家庭弁当の持参は定着している。
- 一方で家庭弁当を持参しない日は、簡易な屋食で済ませている実態がある。
- 屋食の希望としては、生徒・保護者の希望が相反するなど、様々な傾向にある。

## ○家庭弁当

- ・家庭弁当について、「好みや体調に合わせて内容や分量が調節できる」「アレルギーなどきめ細やかな対応ができる」「家庭のぬくもりを感じる」では全ての対象者の半数以上が「そう思う」と回答している。(設問 17)

【設問 17】 次を書いてあることは、弁当持参の意義や、弁当持参のよいと思われる点です。あなたは、このことについてどのよう to 思いますか。

設問	質問内容	回答	市民	教職員	中学生	中学生 保護者	小学生	小学生 保護者
a.	家庭弁当は、生徒の好みや体調に合わせて、おかずの内容や分量が調整できる。	1. そう思う	79.0%	88.2%	63.9%	77.4%	77.0%	72.3%
		2. 思わない	14.5%	8.2%	12.9%	16.8%	8.2%	21.4%
		3. わからない	6.5%	3.5%	23.3%	5.8%	14.8%	6.3%
b.	家庭弁当は、アレルギーへの対応などがきめ細やかにできる。	1. そう思う	87.9%	93.7%	60.1%	81.8%	69.5%	79.9%
		2. 思わない	6.9%	2.6%	9.0%	9.3%	8.5%	10.6%
		3. わからない	5.2%	3.7%	30.9%	9.0%	22.0%	9.5%
c.	家庭弁当は、生徒が家庭のぬくもりを感じるができる。	1. そう思う	73.1%	90.4%	57.6%	76.7%	69.0%	71.5%
		2. 思わない	15.6%	4.6%	12.2%	10.5%	10.0%	16.0%
		3. わからない	11.4%	5.0%	30.2%	12.8%	21.0%	12.5%
d.	家庭弁当は、学校での昼食に必要な時間が短くて済むことから、時間が有効に使える。	1. そう思う	29.3%	43.8%	54.3%	35.9%	67.6%	28.0%
		2. 思わない	48.3%	38.8%	19.9%	38.7%	13.4%	49.6%
		3. わからない	22.4%	17.4%	25.8%	25.5%	19.0%	22.4%
e.	家庭弁当は、持ち帰った弁当箱の食べ残しなどで、家庭が、子どもの体調を把握できる。	1. そう思う	64.6%	81.8%	40.5%	71.1%		58.6%
		2. 思わない	25.0%	10.8%	21.3%	20.6%		30.3%
		3. わからない	10.5%	7.4%	38.3%	8.3%		11.1%
f.	家庭弁当は、家族の分などをまとめて作るなどにより、給食費を支払うより経済的である。	1. そう思う	25.5%	43.1%		20.8%		12.2%
		2. 思わない	41.7%	30.0%		55.1%		65.9%
		3. わからない	32.8%	26.9%		24.1%		21.9%
g.	家庭弁当を含め、食生活は、トータルで家庭で考えるべき問題である。	1. そう思う	62.6%	77.2%		49.2%		42.7%
		2. 思わない	23.2%	14.7%		27.2%		32.9%
		3. わからない	14.2%	8.1%		23.5%		24.4%

・一方、「日々の弁当作りの大変さ」「品質管理の大変さ」「バランスのとれた弁当作りの大変さ」では、全ての対象者の半数以上が「そう思う」と回答している。（設問 18）

【設問 18】 次を書いてあることは、弁当持参の課題と思われる点です。あなたは、このことについてどのように思いますか。

設問	質問内容	回答	市民	教職員	中学生	中学生 保護者	小学生	小学生 保護者
a.	日々の弁当作りは、大変な作業である。	1. そう思う	84.4%	83.4%	80.9%	81.6%	85.4%	90.8%
		2. 思わない	10.7%	13.1%	5.5%	14.8%	6.5%	7.1%
		3. わからない	4.9%	3.5%	13.6%	3.6%	8.1%	2.1%
b.	家庭弁当は、弁当の内容が様々であることから他の生徒の弁当と比較されることがある。	1. そう思う	63.3%	52.0%	20.2%	46.6%	25.1%	63.1%
		2. 思わない	24.6%	37.1%	51.3%	32.0%	44.2%	24.2%
		3. わからない	12.1%	10.9%	28.4%	21.4%	30.7%	12.7%
c.	家庭弁当は、毎日学校に持っていくのが大変である。	1. そう思う	33.1%	16.4%	37.6%	45.4%	21.2%	48.3%
		2. 思わない	59.9%	80.0%	51.1%	43.7%	66.6%	40.6%
		3. わからない	7.1%	3.6%	11.2%	10.9%	12.2%	11.1%
d.	家庭弁当は、夏場は傷みやすく、冬は冷たいなど、品質管理が大変である。	1. そう思う	82.6%	60.1%	56.0%	90.9%		93.7%
		2. 思わない	14.1%	34.9%	19.7%	7.2%		4.8%
		3. わからない	3.3%	5.0%	24.3%	1.9%		1.5%
e.	突然の体調不良などで、弁当が作れないとき、昼食に困る	1. そう思う	70.3%	49.0%		71.0%		83.6%
		2. 思わない	21.9%	44.2%		24.5%		13.4%
		3. わからない	7.8%	6.7%		4.5%		3.0%
f.	家庭弁当は、メニューにかたよりが出ると、バランスのとれた弁当づくりが大変である。	1. そう思う	70.3%	51.5%		83.0%		87.7%
		2. 思わない	23.1%	40.2%		13.5%		9.7%
		3. わからない	6.5%	8.2%		3.5%		2.7%
g.	家庭弁当は、必要量以上の食材を購入するなど、経済的負担が大きくなる可能性がある。	1. そう思う	39.2%			63.5%		69.7%
		2. 思わない	40.7%			25.5%		18.2%
		3. わからない	20.1%			11.0%		12.0%

→家庭弁当の意義・効果について認識されていることがうかがえる。  
→家庭弁当に対して、日々の負担感だけでなく、安全・衛生・栄養面での不安が大きいことがうかがえる。

## ○学校給食

- ・学校給食について、「協調性を養うことができる」「仲間作りに役立つ」「家庭での食育のきっかけとなる」では市民・中学生の保護者・小学生の保護者の6割以上、「好き嫌いをなおすきっかけになる」では中学生の保護者・小学生の保護者の7割以上、「衛生管理が良く安全安心の昼食をとれる」「献立が多様でバランスがよい」では、市民・中学生の保護者・小学生の保護者の7割以上が「そう思う」と回答している。(設問19)

【設問19】 次を書いてあることは、学校給食の意義や中学校給食を実施した場合のよいと思われる点です。あなたは、このことについてどのように思いますか。

設問	質問内容	回答	市民	教職員	中学生	中学生 保護者	小学生	小学生 保護者
a.	給食当番など共同作業をすることで、協調性を養うことができる。	1. そう思う	77.0%	56.7%	35.6%	78.9%	38.6%	84.2%
		2. 思わない	13.0%	28.9%	29.5%	9.7%	31.1%	6.6%
		3. わからない	9.9%	14.4%	34.9%	11.4%	30.3%	9.2%
b.	みんなで同じものを食べることで、より、会話がはずんだりすることで仲間づくりに役立つ。	1. そう思う	64.2%	39.4%	45.1%	71.7%	49.1%	77.6%
		2. 思わない	22.4%	44.5%	29.6%	14.1%	31.1%	10.3%
		3. わからない	13.4%	16.1%	25.3%	14.1%	19.7%	12.2%
c.	給食は、生徒が家に持ち帰る献立表などを通じて、家庭での食育のきっかけとなる。	1. そう思う	63.1%	44.7%	30.0%	68.7%	30.5%	70.9%
		2. 思わない	21.7%	36.0%	31.0%	14.8%	35.9%	13.0%
		3. わからない	15.2%	19.3%	39.0%	16.5%	33.6%	16.0%
d.	好き嫌いをなおすきっかけになる。	1. そう思う	59.3%	40.6%	40.5%	76.8%	45.6%	81.0%
		2. 思わない	29.1%	45.2%	38.1%	14.4%	36.6%	12.4%
		3. わからない	11.6%	14.3%	21.4%	8.8%	17.8%	6.6%
e.	食材・調理の衛生管理が良いなど、安全・安心な昼食をとることができる。	1. そう思う	72.7%	61.6%	51.6%	78.7%	54.7%	85.3%
		2. 思わない	13.0%	21.1%	18.3%	7.8%	18.1%	4.3%
		3. わからない	14.3%	17.4%	30.0%	13.4%	27.2%	10.4%
f.	毎日の献立が変化に富み、あきがなく、いろいろなものをバランスよく食べることができる。	1. そう思う	84.0%	71.9%	60.5%	92.5%	60.7%	95.8%
		2. 思わない	7.6%	18.3%	17.0%	3.3%	18.7%	1.6%
		3. わからない	8.4%	9.8%	22.5%	4.2%	20.5%	2.6%

- ・一方、教職員の半数以上が、「食べ残しが多く出る」「当番をまじめにやらない、いたずらがある」という懸念を抱いている。(設問 20)
- ・教職員・中学生の半数以上は、「給食の準備等で、他の活動時間に影響が出る」ことを懸念している。(設問 20)
- ・市民・教職員の7割以上、中学生の保護者・小学生の保護者の5割程度が、「滞納問題」を懸念している。(設問 20)

【設問 20】 次を書いてあることは、中学校で給食を実施した場合の課題と思われる点です。あなたは、このことについてどのように思いますか。

設問	質問内容	回答	市民	教職員	中学生	中学生 保護者	小学生	小学生 保護者
a.	中学生になると食べ物の好みなどから、食べ残しが多くでることがある。	1. そう思う	36.7%	<b>61.3%</b>	36.3%	24.0%	29.5%	19.1%
		2. 思わない	38.2%	23.2%	40.0%	55.2%	42.3%	58.9%
		3. わからない	25.1%	15.4%	23.7%	20.9%	28.1%	22.0%
b.	生徒が給食当番をまじめにやらなかったり、給食にいたずらしたりすることがある。	1. そう思う	34.4%	<b>57.1%</b>	37.4%	24.2%	30.9%	21.0%
		2. 思わない	39.7%	26.0%	35.7%	47.4%	44.8%	48.6%
		3. わからない	25.9%	16.9%	26.9%	28.3%	24.3%	30.4%
c.	「食べ物の好き嫌い」や「食べるのが遅い」ということを生徒が負担に感じることがある。	1. そう思う	41.8%	53.6%	41.6%	25.4%	44.0%	19.9%
		2. 思わない	40.0%	30.9%	38.3%	49.8%	38.1%	55.2%
		3. わからない	18.3%	15.5%	20.2%	24.8%	17.9%	24.9%
d.	給食の準備や後片付けの時間が必要になるため、学校での他の活動時間が今よりも減ることがあると思われる。	1. そう思う	25.1%	<b>65.4%</b>	<b>54.0%</b>	24.1%		15.0%
		2. 思わない	59.9%	23.9%	21.7%	55.0%		65.5%
		3. わからない	15.0%	10.8%	24.3%	20.9%		19.5%
e.	給食費の滞納の問題がある。	1. そう思う	<b>73.1%</b>	<b>88.9%</b>		<b>55.6%</b>		<b>48.5%</b>
		2. 思わない	9.9%	3.1%		18.8%		22.0%
		3. わからない	17.0%	8.0%		25.6%		29.6%
f.	中学校給食にたくさんの税金を使うのであれば、他のことに使うべきである。	1. そう思う	29.3%	46.6%		17.8%		11.3%
		2. 思わない	51.8%	34.8%		59.2%		67.2%
		3. わからない	18.8%	18.5%		22.9%		21.4%

- 学校給食の教育的意義とともに、衛生・安全・栄養面に対する期待が大きいことがうかがえる
- 学校現場としては、昼食指導、校時への影響への不安があると推察される。
- 各回答者において、給食費の滞納問題への不安が大きいことがうかがえる。

## ○給食に対するニーズ

- ・ 給食の実施について、「実施するほうが良い（できれば実施を含む）」と回答した者は、市民の66.6%、中学生の保護者の80.2%、小学生の保護者の88.5%である。（設問21）
- ・ 「実施しないほうが良い（できれば実施しないを含む）」と回答した者は、教職員の60.2%、小学生の49.6%である。（設問21）
- ・ 給食の実施について、「実施するほうが良い（できれば実施を含む）」と回答した中学生は41.5%、「実施しないほうが良い（できれば実施しないを含む）」と回答した中学生は36.0%、「わからない」と回答した中学生は22.5%である。（設問21）

設問	質問内容	回答	市民	教職員	中学生	中学生 保護者	小学生	小学生 保護者
【設問21】	中学校での給食の実施についてどう思いますか。	1. 実施するほうがよい	25.6%	14.0%	23.0%	44.5%	16.3%	55.8%
		2. できれば実施するほうがよい	41.0%	19.5%	18.5%	35.7%	15.3%	32.7%
		3. できれば実施しないほうがよい	16.1%	19.7%	13.9%	6.5%	20.0%	3.0%
		4. 実施しないほうがよい	12.6%	40.5%	22.1%	5.4%	29.6%	3.5%
		5. わからない	4.7%	6.3%	22.5%	7.8%	18.8%	5.1%

- 市民、中学生の保護者、小学生の保護者は、給食の実施を望む声強いことがうかがえる。
- 一方、教職員、小学生は、給食実施に消極的であることがうかがえる。
- 中学生は学校給食に対する思いが様々である。

## ◇他都市の中学校給食実施状況調査〔概要〕

### ●政令市の実施状況

- ・ 17 都市中、
  - 完全給食：11 都市
  - ミルク給食：3都市(川崎市・神戸市・北九州市)  
※北九州市は完全給食の試行実施中
  - 未実施：3都市(横浜市・堺市・大阪市)

### ・ 主な給食実施方式について

- 自校調理方式：さいたま市、浜松市
- センター方式：仙台市、千葉市、静岡市、福岡市
- 親子方式：札幌市
- デリバリー方式：新潟市、名古屋市、京都市、広島市

※北九州市は試行実施中(民間デリバリー方式・親子方式)

### ●視察6都市・調査結果報告について

松戸市：自校調理方式(選択制、19 年度選択率 94.5%、平成4年から本格実施。)

千葉市：センター方式(全員喫食、昭和 42 年に全校実施完了。)

高松市：親子方式(全員喫食、昭和 62 年から本格実施。)

京都市：デリバリー方式(選択制、平成 19 年度選択率 26.9%、平成 13 年から本格実施。)申込は月単位で。献立は1種類。弁当箱方式。

名古屋市：デリバリー方式(選択制、平成 19 年度選択率 56.1%、平成8年から本格実施。)申込は日単位(3日前までに申込)。献立はランチルームでは2種類、弁当箱方式では2種類の合計4種類。

広島市：デリバリー方式中心(選択制、平成 19 年度選択率 53.0%、平成9年から本格実施。)申込は月単位で。献立は1種類。弁当箱方式。

(※自校・親子・センター方式の混在型→様々な給食実施手法により給食を実施していた市町村を合併したため混在化。)

## 【参 考】

### ●学校給食の区分（実施方式）

学校給食法施行規則において、学校給食の区分を次のとおり定めている。

- ・完全給食  
給食内容がパン又は米飯（これらに準ずる小麦粉食品、米加工食品その他の食品を含む。）、ミルク及びおかずである給食をいう。
- ・補食給食  
完全給食以外の給食で、給食内容がミルク及びおかず等である給食をいう。
- ・ミルク給食  
給食内容がミルクのみである給食をいう。

### ●学校給食の調理方式

- ・自校調理方式〔単独校調理場方式〕  
自校に給食の調理施設を有し、調理したものを当該学校の児童生徒が喫食する方式。
- ・センター方式〔共同調理場方式〕  
複数校の給食を一括して調理できる大規模な給食調理施設を建設して調理し、できあがった給食を、各校に配送する方式。
- ・親子方式  
近隣の複数校の給食を1校の調理施設で調理し、調理施設を有しない学校に配送する方式。（給食室のあるほうが「親」で、給食を受け取る側が「子」という。）
- ・デリバリー方式〔民間調理場方式〕とは、  
センター方式と類似しているが、給食調理施設を民間事業者の調理施設の一部を活用し、主に民間事業者が調理した給食を各学校に配送する方式。

## ◇学校給食の実施方式の検討資料

### ●各実施方式の経費試算、メリット・デメリット

#### ・経費試算(シミュレーション)

		自校調理	給食センター方式	親子方式	デリバリー方式 (食缶方式)	デリバリー方式 (弁当箱方式)
全員喫食	初期経費	121.7 億円	205.6 億円	56.7 億円	28.8 億円	28.8 億円
	経常経費	23.8 億円	19.0 億円	23.6 億円	19.0 億円	19.0 億円
	経常経費(減価償却)	3.9 億円	6.1 億円	2.4 億円	1.3 億円	1.3 億円
選 択 制 (選択率 50%)	初期経費	120.7 億円	116.2 億円	55.7 億円	27.8 億円	20.8 億円
	経常経費	15.8 億円	12.0 億円	15.5 億円	12.0 億円	11.8 億円
	経常経費(減価償却)	3.7 億円	3.6 億円	2.2 億円	1.2 億円	0.9 億円

#### ・メリット

自校調理方式 : 適温提供の面で最も優れている。

センター方式 : 人件費については、自校調理方式・親子方式より抑制可能。

親子方式 : 適温提供の面で自校調理方式に次いで優れている。

デリバリー方式 : 民間調理施設を利用するので初期経費は最小限。

経常経費も最小限。弁当箱方式の場合、配膳時間は短くて済む。

#### ・デメリット

自校調理方式 : 調理施設の建設費用や人件費・維持管理費等、多額の費用がかかる。

センター方式 : 給食施設建設のための用地確保が必要。

施設設備等の経費が必要。(配送時間の関係で本市の場合、多数のセンターが必要。)

配送時間が長くなれば、冷めたり、献立によっては食味を損なう。

親子方式 : 親校[小学校]の給食室の改修工事や調理機器等の増設が必要。更に配送用の搬出入口の整備等、大規模改修が必要。

デリバリー方式 : 弁当箱方式の場合、衛生管理上、副食は一旦冷却する必要があり、適温提供には工夫が必要。

→それぞれの実施方式にメリット・デメリットあり。コスト的には民間デリバリー方式が最も優れているが、適温提供の面では工夫が必要。

## ◇昼食提供事業について

### < 4月開始校 >

#### (1) 現 状 (ゆうちょ銀行振込による支払い／申込用紙による予約)

##### ① 利用状況

開始当初は半数を超える利用率であったが、5月から30%程度で推移。

実施月	4月	5月	6月	7月	9月	10月
生徒利用率	54.1%	37.4%	32.5%	35.2%	31.6%	28.3%

##### ② 校長ヒアリングの実施

- ・ 生徒の大半が家庭弁当または業者弁当であり、弁当を持参しない生徒への対策として、この事業が機能している。
- ・ 校内および保護者の間では、「いろいろな点で給食の方が良かった」との声が多い。

##### ③ 業者ヒアリングの実施

- ・ 配膳員（全校配置）の経費が負担になっている。また昨年来の食材費や配送コストの高騰により、コスト削減努力も限界に近い。

##### ④ アンケート

###### 【実施状況】

アンケート	生 徒			保護者			教職員		
	在籍者数	回答者数	回収率	配布数	回答者数	回収率	対象者数	回答者数	回収率
合計	1,201	1,084	90.3%	1,201	753	62.7%	411	263	64.0%

###### 【アンケート調査結果】

○業者弁当を利用していますか(全員対象)

	生 徒
1 利用している	44.0%
2 初めは利用していたが、今は利用していない	21.4%
3 利用したことはない	34.5%

全生徒のうち、約6割が利用したことがあり、約2割はその後利用しなくなっている。月別利用状況（4月が約5割、5月以降は約3割で推移）からみると、4月当初には利用したものの、5月以降に利用しなくなった生徒が多いことがわかる。

#### 《業者弁当について》

○あなたは、1週間で、何日ぐらい業者弁当を利用しますか

	生 徒
1 毎日	79.4%
2 2～4日	15.3%
3 0～1日	5.3%

利用している生徒の1週間あたりの利用頻度は、「毎日」が79.4%となっている。また、「利用している生徒」の割合（上記・44.0%）から、全生徒のうち「毎日利用している」生徒の割合を算出すると、34.9%となり、「2～4日」が6.7%、「0～1日」が2.3%となっている。継続して利用している生徒が多いことから、栄養バランスはもちろん、飽きのこない献立作成に配慮する必要がある。

## 《給食と弁当の比較》

○昨年度までの給食方式と現在の弁当方式ではどちらが良いですか

	生徒	保護者	教職員
1 給食方式	69.2%	96.0%	76.7%
2 弁当方式	19.3%	4.0%	23.3%
3 わからない	11.6%	—	—

いずれの回答者も、「給食方式が良い」とする回答が多くなっている。特に、主として弁当を作る立場である保護者では9割以上が、給食が良いと感じている。

## (2) 検証

- ・利用率は事業の開始当初、全体として50%を超えていたが、5月以降は各校とも低下し、30%程度で推移している。
- ・家庭弁当を持参しない生徒のほとんどが業者弁当を利用している。
- ・利用している保護者からは、「パンやおにぎりなどの簡単な食事で済まなくてよいので、助かっている」との声がある。
- ・保護者負担の激変緩和措置については、「助かっている」との声が多い。
- ・「好みに応じて利用する日を選択できるのでよい」という声もある。
- ・振込みによる支払いで、学校へ現金持参の必要がないため、現金トラブルはない。
- ・事業の全般について、生徒、保護者、教職員から改善を望む声がある。
- ・弁当内容に対する要望が多く、毎月の献立において徐々に改善が図られているものの、更なる改善を望む声もある。
- ・食材料費の高騰などコストをめぐる情勢が大きく変化し、また配膳員の全校配置も業者にとって大きな負担になっている。
- ・業者にとっては、改善策の検討にあたっては、コストが大きな制約になっている。
- ・利用率の低下により、業者による配膳員配置が困難になった場合の対応を検討する必要がある。
- ・予約システムに移行するには、変更に伴う混乱やシステムの利用が困難な家庭への対応など、学校や地域の実情に合わせた円滑な移行が必要となる。

## (3) まとめ

- ・生徒の昼食の状況について、校長ヒアリングによると、各校とも昼食時に何も食べていない生徒は見受けられず、また家庭弁当を持参しない生徒のほとんどが業者弁当を利用しており、パンやおにぎりなどの簡易な食事で済ませている生徒はごく一部であることから、この事業が弁当を持参しない生徒への対策として一定の役割を果たしている。
- ・家庭弁当の持参が徐々に定着しており、弁当持参の意義や必要性を感じている家庭もある。
- ・昼食提供事業については献立や弁当内容の改善を求める声があり、より栄養価等、内容に配慮した昼食提供が必要であるが、コスト面での制約があることが課題である。

## < 9月開始校 >

### (1) 現 状 (予約システムによる支払い・予約)

#### ① 利用状況

実施月	9月	10月
生徒利用率	2.0%	1.8%
利用登録率	8.7%	9.6%

#### ② アンケート

##### 【実施状況】

アンケート	生徒			保護者			教職員		
	在籍者数	回答者数	回収率	配布数	回答者数	回収率	対象者数	回答者数	回収率
合計	2,582	2,353	91.1%	2,582	1,802	69.8%	736	459	62.4%

##### 【アンケート調査結果】

○学校での昼食は、いつもどのようにしていますか(全員対象)

	生徒	保護者
1 毎日、家庭で作る弁当を持たせている(週に5日)	56.0%	59.8%
2 ほとんど毎日、家庭で作った弁当を持ってきている(週に4日)	31.0%	30.4%
3 日によって、家庭で作った弁当を持ってきている(週に2~3日)	7.4%	6.9%
4 家庭で作る弁当は、ほとんど持たせていない(週に0~1日)	5.7%	3.0%

生徒、保護者とも、ほとんど同じ回答率であり、半数を超える者が、毎日家庭で作った弁当を持ってきている。「ほとんど毎日」も合わせると9割近い生徒がほぼ毎日持ってきており、家庭弁当が定着していることがわかる。

○家庭弁当でない時の昼食(家庭弁当持参率別クロス集計;複数回答あり)

	家庭弁当を持参する日数(週)		
	4日	2~3日	0~1日
1 業者弁当(昼食提供事業の弁当)	11.5%	23.5%	43.4%
2 校内で売っているパン、おにぎりなど	27.5%	20.5%	17.1%
3 校外で売っている弁当	4.3%	5.4%	2.3%
4 校外で売っているパン、おにぎりなど	64.2%	59.0%	42.6%
5 その他	1.3%	2.4%	3.1%

生徒の回答で、「家庭弁当持参日数」と「家庭弁当でない時の昼食」のクロス集計をしたところ、週に4日程度、家庭弁当を持ってきている生徒のうち64.2%が校外で売っているパン、おにぎりなどの昼食であり、校内で売っているパン、おにぎりが27.5%と続いている。また、業者弁当を利用したことがある生徒は、11.5%となっている。その一方で、週に0~1日程度、家庭弁当を持ってきている生徒のうちの42.6%が校外で売っているパン、おにぎりなどの昼食であり、校内で売っているパン、おにぎりが17.1%となっている。それに対し、業者弁当を利用したことがあるのは、43.4%となっている。

自由記述から推察すると、あまり家庭弁当を持参しない生徒になるほど業者弁当の利用率が高くなっており、これまで、パンやおにぎり等の簡易な昼食で済ませていた生徒の利用が多いと思われる。

○ 1 週間で、何日ぐらい業者弁当を利用しますか

	生徒
1 毎日	21.0%
2 2～4日	25.2%
3 0～1日	53.8%

利用している生徒は、1 週間で「0～1 日」利用が最も多く、53.8%を占めている。

## (2) 検証

- ・ 家庭からの弁当持参が定着しており、9月、10月の利用率は2%程度で推移している。
- ・ 事業の開始当初、予約や配送に関するトラブルが若干みられたが、現在では各校ともスムーズに事業運営ができています。
- ・ 家庭弁当の持参が週に0～3回の生徒の約3割が利用しており、ほぼ毎日利用している生徒もいる。また保護者からは、「多様なメニューで、栄養を考えると非常に助かる」、「子供に任せると何を食べるか分からないので、ありがたい」、「急に作れないときに、この事業があると安心」などの声が寄せられている。
- ・ 利用している生徒、保護者からは、弁当のメニュー、分量、栄養価、価格などについて、概ね好評を得ている。
- ・ 保護者から「利用したいが、予約方法がわからない」、「予約や支払いが面倒そうなので、もっと簡単にしてほしい」など、利用方法についての要望が多い。
- ・ 家庭弁当を基本にしながら、急に作れなくなったときに利用したいという声が多く、事前に利用者登録や代金支払いが必要なことで利用しづらいと感じていたり、「原則として3日前までに予約」を「3日前以降は予約できない」と思い込んでいる保護者も多い。
- ・ 配膳業務について、コストの制約から業者による配膳員の配置ができず、学校の業務となっており、大きな負担になっている。

## (3) まとめ

- ・ 実施して2ヶ月余りであり、多くの生徒にとって、弁当を持参しない場合の選択肢として定着するには至っていない。
- ・ 一方で、ほぼ毎日利用している生徒もいることから、必要とする家庭にとっては有効な事業といえる。
- ・ 従来から弁当持参を基本としている学校での事業であり、弁当を作れないときの利用を望む保護者が多いことから、こうしたニーズに対応できるよう、事業周知や利用方法の改善を図り、必要とする生徒の利用を促進していく必要がある。